

---

# 魂には届かない。 [千文字小説]

尖角?

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魂には届かない。 「千文字小説」

### 【Nコード】

N9275X

### 【作者名】

尖角？

### 【あらすじ】

好きな人と逢えるかどうかわからない死後の世界。 そんな世界を想って死ぬ彼の姿。

「君を好きだった　ずっと想っていた」

それだけは、言いたかったんだ。

君と俺とは、いわゆる両想い。

それは、周りの誰もが知っていたし、俺達には当然のことだった。  
しかし、そんな想いを言葉にしたことは、告白した時と、君が死  
んでからの2回だけ。

なぜそれまでに、もっと言わなかったのだろう？

君は、「言わなくてもわかってる」と思っているだろう。

けれど、それを口にしていなかったことの悔しさが、今込み上げ  
てくるんだ。

「くっそ！くっそ！」・・・とね。

君は死んでいて、俺は生きている。

例え、悔やんだとしても、君を想ったとしても、この現状は変わらないのに。

なぜ、君が先に死んでしまったのだろうか？

僕が先に死んでいれば、君を見送る必要なんてなかったのに。

悲しむ必要なんてなかったのに、君は僕にそれを強要したんだ。

人生とは悲しいものだよ。

現代人が死ぬには、ほとんどが“ガン”にならなければ・・・。

そう、、そんなことは知っていた。

けれども、自覚があったわけではない。

だから、君が“ガン”と宣告された時には驚いた。

けれども、君を見ていて、本当に元気だったし、楽しそうだったから、安心しきっていた。

だけど、医者と言ったよ。

「末期です」・・・とね。

悲しいかな、これが現実と言うものだよ。

医者が言った途端、君の調子は“ガタン！”と崩れていった。

「ああ、私死ぬのね」 これは君が死ぬ数日前に発したセリフ。

戦うことのできる体力まで失われた君、

俺達に、希望なんて言葉は無くて。。。

「なんで、君じゃなきゃダメなんだ？」

「俺が不幸にしたのか？俺と出会わなければよかったのか？」

「俺が不幸にしたんだ。　そうだ、絶対に」

「くっそ！！　くっそ！！　くっそおお！！！！」

そう叫び続けた。

どれだけ叫んでも、君の心には響かないのに。

どれだけ愛していても、所詮は届かないのに。

僕も病になったよ。

鬱という、全てを萎えさせる病気にね。

何もかもが嫌だ。

君がいなければ、立ち上がることもすら面倒に感じる。

だって、君がいないのに立ち上がったところで、そこに何があるのか？

俺には分からない。

君が全てだった俺には、皆目理解などできない。

だから、俺は気が付くんだ。

俺が死ねば、君に逢えるかもって。

だって、こっちの世界で、君に出逢えたんだ。

所詮、世界は狭いものさ。

だったら、向こうの世界でも、君に出逢えるさ。

そう思ったから、僕は死ぬことを決める。

逢えるかどうか知らない君のためにね



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9275x/>

---

魂には届かない。 [千文字小説]

2011年11月24日20時55分発行